

# ONGAKU NO TOMO

(FRIENDS OF MUSIC)

article " Les Pecheurs de Perles in Tokyo 2005"



「真珠とり」ナディールの中島康晴とレイラのマッシス(p30、p146に関連記事)

する要素を奇跡のように表現して秀逸。2年前にトリエステ歌劇場の「タンクレードイ」でベルカント歌唱を堪能させてくれたマッシスだが、その柔らかい声にこれほどの表現力が秘められていたとは。バリトンのグラッシも感情の起伏の大きいスルガを好演。そしてもう一人の主役ナディールを日本の中島康晴が歌った。イタリアの歌劇場の来日公演で日本人が主役テノールをになうのはこれが初めてではないだろうか？ マッシスとグラッシに並ぶと役作りにまだ課題があるように感じられたものの、高音のある難役を音楽的に歌い演じたのは立派だった。フランス人指揮者のトゥルニエールはオーケストラから柔らかい響きと微妙な色彩をひきだす。そしてその響きはピッツィの造形と美しく調和していた。(5月18日)

音楽的にも視覚的にも最も満足させてくれたのは、イタリアのものではなく、フランスものだった。2つのヴェルディ作品については「イタリアの声」の不足がもどかしい。これはいま世界で進行している「声のインターナショナル化現象」の一つなのか。それとも、他の劇場とはひと味違うフェニーチェ歌劇場の個性と考えるべきなのだろうか？



## Les Pêcheurs de Perles

■ピゼー(真珠とり)全3幕  
日程:5月8日(びわ湖ホール)、  
18・20日(Bunkamuraオーチャードホール)  
演出:ピエール・ルイージ・ピッツィ  
指揮:ギヨーム・トゥルニエール  
出演:アニック・マッシス(レイラ)、  
中島康晴(ナディール)、ルカ・グラッシ(スルガ)、ルイー  
ジ・テドナート(ヌラバッド)他